

令和5年 年頭所感

『只管打射でコツコツ鍛錬すれば光が見える』

令和5年1月吉日

石川県弓道連盟会長 水橋 美喜夫

県連会員の皆様、明けましておめでとうございます。

西暦2023年、令和五年「癸卯（みずのと・う）の新年にあたり、皆様には本年が幸多き素晴らしい年となりますようお祈りいたします。

新型コロナウイルス感染は実質3年を超えて、いまだに収束の光が見えてきません。むしろ増加傾向にあります。皆様もどうぞ気を抜かず、日頃からご健康に留意してください。



さて、令和4年を振り返るとコロナ制限が残る変則的な競技環境のなか、本県連としては大きな収穫がありました。先の県連機関誌で掲載しましたが、全国中学生弓道大会 JOC ジュニアオリンピック大会での男子個人優勝、いちご一会とちぎ国体での成年女子チーム近隣の3位、遠的2位、全日本弓道遠的選手権大会における女子2位、3位という輝かしい成績を残していただきました。選手・関係者の皆さんには改めて敬意と感謝を申し上げます。

中央審査においては錬士4名、六段2名が難関突破されました。おめでとうございます。

また、私ごとですが、このたび文部科学大臣表彰（生涯スポーツ功労者）を受賞いたしました。石川県連の着実な躍進が称えられたものと感じており、感謝いたします。

一方、講習会関連では、県立武道館で地域社会弓道指導者研修会が3年ぶりに開催されました。さらに、「日本スポーツ協会弓道コーチ1」の養成講習会を久しぶりに実施し、32名が受講完了しました。（資格取得は本年10月になります）その折、茨城県の柴田範士に1日の講習を無理にお願いしました。先生の丁寧な指導を受けた皆さんは、本当に目を輝かせて感嘆の声をあげていたのが印象的でした。

この他、県立ろう学校生徒への弓道授業指導も4年目となり、全弓連からいただいた弓具を活用して真剣に、かつ熱心に取り組んでいる姿を拝見して感動しました。

これら様々な慶事や充実などを皆さんとともに祝うため、このほど3年ぶりに県連祝賀会を企画いたしました。もちろんコロナ対策に十分配慮しながら実施いたしますので、大勢の方々との喜びを分かち合いたいと思います。ご理解をよろしく願います。

干支の兎はジャンプが得意ですが、一步一步の着実な歩みも併せてこそ躍進が叶います。私自身は今年の研究課題として「鳥兎の梯」の弦道にこだわってみようかと考えています。

口癖になりますが、まだ続く不自由な環境下で、今日もただ弓が引けるといふ、そのことに感謝する心を持ち、本年も地道にコツコツと只管打射に励みましょう。一丸となって弓道の技と心に磨きをかければ、病魔退散と県連における昨年以上の朗報がもたらされると確信します。併せて皆様が明るく楽しい弓道人生となるよう念じて年頭の挨拶といたします。